

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

千葉県 長生村立長生中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

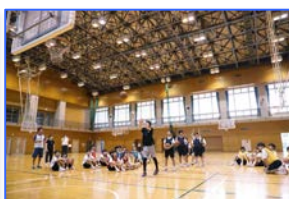
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年9月5日 (木)

■ク ラ ス : 2年B組 (30名)、2年C組 (30名)

■オリンピアン : 田知本 遥 先生 (柔道) 【出場オリンピック/ロンドン大会、リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日は皆と一緒にオリンピックについて考えながら、理解を深めてもらいたい、と授業の目的及び運動の時間は「連帯」をテーマに進めていくことを確認。
- ・準備体操として、ダイナミックストレッチ、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを2班毎3チームに分かれて全3回実施。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、各チーム毎前回より多く跳べるよう話し合う。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に意識して取り組むよう伝えた「連帯する」ということがどのチームも出来ていたと伝える。
- ・座学の時間では、さらにオリンピックや「連帯」の大切さを一緒に考えていくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間 （2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックシンボルの意味やピエール・ド・クーベルタン、嘉納治五郎のオリンピックに対する考え方を写真や映像を見せながら解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、全てを懸けた試合」、「フレンドシップ＝友情、海外の選手たちとの交流」、「リスペクト＝敬意/尊重、ありがとう」と説明。

3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、自分や同じチームの人のどのような行動がオリンピズムやオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。
- 発表：「皆と協力した」「勝負から逃げない」「最後まで跳び続ける」「全力でやり切る」「楽しんで跳ぶ」(エクセレンス)
 「跳びやすいように声を掛け合ってリズムを作った」「得意な人、苦手な人を考え、並び順を変えた」「思ったことを話し合う」(フレンドシップ)
 「勝ち負け関係なく拍手した」「優しく教える」「相手の良かったことを取り入れる」「他のチームに感謝する」「励まし合った」(リスペクト)

4. まとめ



- ・2時間の授業を通して伝えたいことは、「どのような結果でも自分の価値は変わらない」ということである。
- ・東京2020大会時に千葉県で実施される4競技を紹介。
- ・今日の授業で学んだことを思い出し、メダル獲得の有無だけでなく、出場している選手がオリンピックバリューをどのように体現しているかといった視点を持つことで、より東京2020大会が楽しめると思う、と伝え授業終了。

実 施 内 容

■期 日 : 2019年9月6日 (金)

■ク ラ ス : 2年A組 (31名)、2年D組 (31名)

■オリンピアン : 足立 夢実 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング 現:水泳/アーティスティックスイミング) 【出場オリンピック/ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介後、今日は「オリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)」について一緒に学んでいきたい、と授業の目的を確認。
- ・準備体操として、通常のストレッチ、音楽に合わせたリズムカルな運動を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・3種(①ボール送り②ボール転がし③ドリブル)混合リレーを班対抗で全3回実施。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、各チーム毎よりタイムを縮めるための方法を話し合う。

4. まとめ



- ・各班が立てた作戦を称える。
- ・座学の時間では、この時間に体験したことを踏まえて、オリンピックバリューについてもっと詳しく学んでいきたいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像や写真を見せながら、ロンドン大会の様子やシンクロナイズドスイミング(現アーティスティックスイミング)のルール等を解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、全力で取り組む、諦めない、努力する」、「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する、チームワーク、仲間、協力」、「リスペクト＝敬意/尊重、ルールを守る、フェアプレー、感謝」と説明。
- ・東京2020大会時に千葉県で開催される4競技を紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：合唱祭(银杏祭)をより良いものにするために何ができるか、意識したいことや取り組みたいことを考えてみよう。
- 発表：「たくさん練習する」「しっかり歌う」「笑顔を大事にする」「愛を込めて歌う」「練習から100%でやる」(エクセレンス)
 「お互いを理解して、協力する」「皆の良いところを見つける」「教え合う」(フレンドシップ)
 「注意はするが、言葉遣いに気を付ける」「アドバイスを生かす」「お互いを尊重し合う」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックは選ばれた人しか出場できない遠い存在であったかもしれないが、実はオリンピックから得られる価値がみんなの学校生活や日常生活の中にある。
- ・オリンピックは「見る人」、「する人」、「支える人」それぞれに感じられることが多い。東京2020大会には興味をもって意欲的に参加してほしい。
- ・この時間に皆で考えたことを活かして、10月の合唱祭でも頑張って良い成績を残してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年A組



2年B組



■ 集合写真
2年C組



2年D組



■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



2年C組



2年D組



■ 修了書贈呈

